

# YMCA NEWS

# 12

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

■ホームページ  
www.kumamoto-ymca.or.jp  
■ブログ  
kumamoto-ymca.wablog.com  
■メールマガジン登録  
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi



●発行所/（財）熊本YMCA / 〒860-8739 熊本市新町1-3-8 TEL.096-353-6397代  
●編集人/ 神保勝巳 ●発行人/ 堤 弘雄 2009年12月1日発行（毎月1日発行）  
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円（送料60円）

## いま、地球市民として生きるために、愛は人を生かす

11月14日(土)、中央YMCAフリースペースでYMCA/YWCA合同祈禱会が開催されました。テーマは「いま、地球市民として生きるために」。神が創られた一人ひとりがいきいきと過ごせるようにと祈りの時を持ち、「愛は人を生かす」と題し、伊集院バプテスト教会牧師の麦野賦さんより奨励をいただきました。

辛い時、悲しい時、戸惑う時、「愛は人を生かす」原動力になります。とりわけ孤独感からの解放は人間を超えた神の恵みの業だと確信します。聖書には数々のイエス・キリストの言葉が記されていますが、代表される言葉が、ヨハネによる福音書第3章16節「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。神は、天地万物を創造し、その愛は分け隔てのない広い愛です。独り子をも惜しみなく与える豊かな愛であり、永遠の命への希望を約束しています。これは聖書全般を通して貫かれるメッセージであり、聖書の神髄と言えます。



ヨハネによる福音書第15章16節、17節に「愛は人を生かす」というメッセージがあります。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によつて父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」。

1つめのポイントは、主イエス・キリストは全世界の救い主として存在し、私たちは罪赦されて救われているということ。「主の選び」によって存在していることをしっかりと自覚しなくてはなりません。人間関係の基本は、自分を宝物として受け入れてくれる人と一緒にいること。それが最高の幸せなのです。「あなたは愛されている」「あなたは大丈夫」「あなたは宝物」ということを私たちはもつと自覚し、伝えていかなければなりません。

2つめのポイントは「主の祝福」です。「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」とつまずき、神の全権大使、救いの全権大使として、私たちはこの地上にあり、それぞれの使命が与えられています。私は、大学4年生の時に薬の中毒症で生死の境をさまよひ、病院のベッドで一週間伏せました。その時に示されたのが旧約聖書にある「ヨナ物語」でした。神様は私のような者を救いに導き、そしてもう一度立ち返らせるために、この病気が与えられたと受け止めることができず、もう一度自分の方向転換をして

ごらん、と。就職が決まっていたため4年間会社勤めをした後、心の中で温めていた聖職の道へ進みました。主である神は私たちを遣わしてくださり、いつも祝福して守り導いてくださっているのです。「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」の聖書の言葉は真実です。

3つめのポイントは「主の命令」です。「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」と、イエス様の言葉の中で唯一強い表現で書かれています。何においても、まずは互いに愛し合うこと。愛(LOVE)には、「Listen(聴く)」「Overlook(赦す)」「Voice(ほめる)」「Fort(Encourage(努力する、励ます、仕える))の頭文字が含まれています。熊本YMCAの使命にある、「共に生きる社会」、地球環境の保全にもつながります。愛するということ、共に生きる世界を創ることなのです。

10月16日は、国連で「世界食糧デー」と定められています。現在、飢餓人口は10億2000万人。飢餓が原因で1分間に17人が亡くなり、そのうち12人は子どもです。原因の多くは自然災害ですが、10年間で8億、9億と増え続ける大きな人口の変動も一因となっています。そんな中で、私たちは飢餓問題をどのように捉えればいいのか。実は、世界では100億人を養える十分な穀物が生産されています。それなのになぜ飢餓問題が起こるのでしょうか。世界人口の20%にあたる日本やアメリカなどの先進国が、世界の食料の80%を消費する一方、世界人口の80%を占めるアジア、アフリカ、中南米など開発途上国と呼ば

れる国が残りの20%を消費しているというアンバランスさに、私たちは目を向ける必要があります。さらに、日本が飼料用として輸入する約2000万トンもの穀物は、世界で1億人以上を養える量です。私たちの意識を変革することが世界的な飢餓の問題解決につながっていくのです。

飢餓の本当の原因は、自分さえよければいい、お金や力を手に入れるためなら何をしてもいいという自己中心的な間違つた考え方にあります。今が決断の時、選択の時です。今までと変わらず、富を独占し、搾取する生き方を続けるか、それとも分かち合う生き方を選ぶか。子どもや孫たちが公義を行う次世代リーダーとなるように、今、私たちがしっかりとしたビジョンを持つことが肝心です。「世界食糧デー」の運動を通して、愛とは分かち合うということ、分かち合えば分かち合うほど愛は増えていくこと、そして、人間としての尊厳と豊かさが回復できることを実感してほしいと思います。

最後に、皆さんに神様の恵みが与えられ、YMCAやYWCAの活動を通して青少年の健全な育成が進められ、私たちの命が豊かになるようにとお祈りします。

**むぎの 麦野 賦さん**  
 1942年 鹿島 県  
 生まれ。早稲田大学卒業  
 生文学部、神学専攻  
 院大学神学専攻  
 業後、1973年まで  
 2008年3月まで  
 本バプテスト伊集院キリスト教会  
 師、現在は同協力牧師、伊集院幼稚園  
 園長を務めるかたわら、地域社会奉  
 仕活動において、人々の助け手として働く。

## わたしと聖句

コリントの信徒への手紙1 第13章12節、13節

わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

マリスタ学園宗教部 武井 信

## ミッションについて

この聖書の箇所は熊本マリスタ学園の建学の精神ともなっており、「信仰、希望、愛」は、本校の校訓として創立以来大切にされてきました。実は、この箇所は私自身とも縁が深く、兄妹は、上から「信・望・愛」と同じ箇所から名前をつけられました。私がここで今教師をしているのには神様の見えない働きを感じます。その精神は「信・望・愛」というもので今に伝わってきています。

私たちは人生において、様々なことを体験します。その人生において大切にしたいものが、第1に目に見えない存在への畏敬の念です。つまり、私たちキリスト者からすれば、神への信仰です。そして第2に、どんなことがあってもあきらめず、光を見失わず、望み続ける、希望です。第3には、人と人との間における最も大切にしたい、相手を大切にするという愛です。この精神に沿って教育を行っていくことは大切だと思えます。そして、自らのミッションを見つめる。今、世の中は明るさを見いだすにたい状況にあります。そんなときだからこそ、信仰・希望・愛といった何にも替えがたいものを大切にしていきたいものです。